

初夏に新そばを供給する「春のいぶき」と春まき栽培法

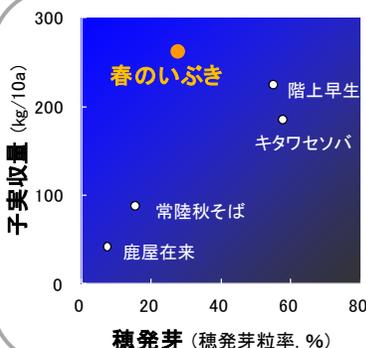
国産そば供給の安定化と高品質化に寄与する春まき栽培を実現する、難穂発芽性品種「春のいぶき」と栽培法

研究開発の背景

- ・気象災害の頻発と輸入品の品質向上を背景に、国産そばには供給の安定化と高品質化が望まれている。
- ・これらニーズに対応できるそばの春まき栽培について、適品種と栽培技術の開発が求められている。

研究成果の内容

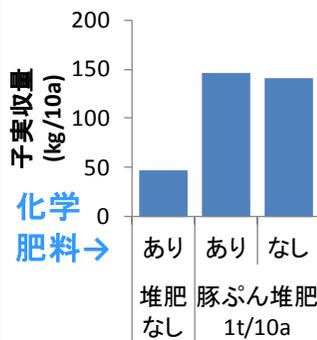
多収で難穂発芽の九州地域向け春まき品種「春のいぶき」と栽培技術



1. 春のいぶき

穂発芽による品質問題が生じにくく多収な、初の九州地域向け春まき栽培用農林認定品種「春のいぶき」を育成 (白色文字は既存品種)

3. 南西諸島への新規導入



化学肥料

あり	あり	なし
堆肥なし	豚ふん堆肥 1t/10a	

減化学肥料等の西諸島向けそば栽培技術を開発し、参加型実証試験によりそばを新規導入

導入メリット

台風回避と高需要期供給

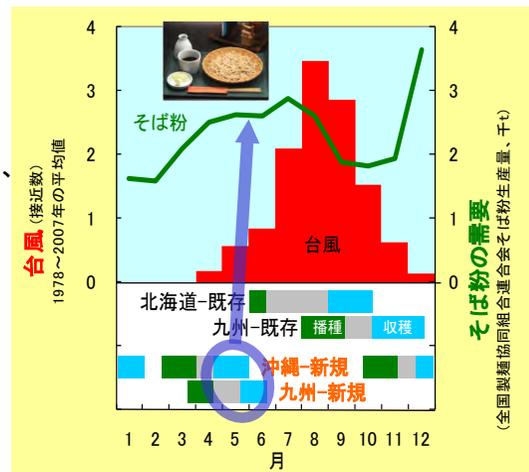
・台風が少ない時期に栽培するため、供給安定化に寄与。
・収穫期が初夏であるため、収穫したての高品質な「新そば」を、需要が高い夏に供給。6次産業化の起爆剤にもなる。

基幹作物との輪作による地域への貢献

・西南暖地では普通期水稻移植前に、南西諸島ではサトウキビ改植時に、輪作作物として導入できる。

・作付面積500haに対して、産地内外の「新そば」販売段階で10.5億円(=収量500kg/ha×製粉歩留70%÷ソーパー人前分ソバ粉0.1kg×ソーパー人前分600円×500ha)に経営所得安定対策の効果を加えた経済効果が見込める。

・南西諸島では、耕作放棄地対策、赤土等流出対策、の切り札に活用されている。



2. 栽培マニュアル



播種適期は晩霜限から4月20日頃で、収穫適期は播種後約65日であるが気温の影響を受けること等を解説した (https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/054650.html)

期待される効果

※本品種の種子の入手先は、下記URLのリストを参照。
http://www.naro.affrc.go.jp/karc/contents/files/seed_soba.pdf

- ・高需要期供給と気象災害リスク分散により国産そば供給の安定化と高品質化に貢献。
- ・基幹作物との輪作により収益性を補完し、耕作放棄地対策、赤土等流出対策に貢献。

導入をオススメする対象

西南暖地平地の普通期水稻単作地域、南西諸島の夏植サトウキビ地域、耕作放棄地活用

